



札幌東支部

大林 慎一

Shinichi Obayashi

先日ある所用があり上京した。朝早い便で札幌を発ったため、夕方の予定まではたっぷり時間がある。そんな時はよく美術館巡りをしていたが、今回は残念ながら特に興味を惹かれる作品展がなく、では他にと調べたところ、日比谷公園で『オクトーバーフェスト』というドイツビールの祭典が行われていることがわかった。「まだ秋ではないのになぜ『オクトーバー』?」という疑問を持ちつつ会場に向かったところ、開場から一時間程度しか経っていないというのに、先客達が多く詰めかけ、また、大いに盛り上がり、座席を見つけるにもやっと。出発した際の札幌の曇天とは違い、この時の東京の晴天下では、すぐに喉をビールで潤したいところではあるが、数か所あるブースとも列が混雑しており、ここは受け取るまで少しの我慢。やっとビールを手にし、席に戻ってきたところ、今度は本場ドイツの楽団によるステージショーにて乾杯の音頭を取るという。「1, 2, 3, 飲み干せ! 乾杯!」(ドイツ語で)と、楽団員のみならず聴衆が気持ちを一つにして声高らかに叫び、そしてグラスを打ち鳴らす。やっと口にできたビールは、酵母が効いていてとてもフレッシュな味がした。

その後は、同じテーブルに居合わせた方々と乾杯を通して楽しく過ごすことができ、つつい長居となり、ビールと食事も次々と新しいものに交換し、結局、4時間近く会場にいたことになった。

そして、その時、ビールの味、会場の雰囲気を楽しみながら、十数年前の6月に出かけたドイツ旅行を思い出していた。

ドイツのロマンティック街道を北から南に抜け、各地域のビールを堪能。また、ミュンヘンでは世界一有名なビアホールといわれている『ホフブロイハウス』で、今回のようにステージショーを見ながら何度も乾杯をし、ビールを飲み干し、一緒に歌い、ダンスをし、たくさん笑った。楽しい思い出は、いつであっても鮮明に映像に浮かぶように思い出せるものだ。決して色あせない。

また来年も、このイベントに合わせて上京し、ステージショーを楽しみ、『乾杯の歌』に合わせて何度も乾杯をし、大いにビールを飲みたいものだと、小さな希望を持った。

以上が、私が久々の休日に、心身ともに「くつろぎの時間」を得られた一つの出来事である。